

令和7年度 学校自己評価書(様式)

鈴鹿市立国府小学校					NO. 1
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価	
学力向上×ICT活用	①ICTを適切に活用し、自律した学習者を育てる授業改善 ②家庭学習充実に向けた自主学習プリントの実施 ③基礎学力向上のため毎朝始業前に基礎学力タイムを設定 ④授業力向上のための定期的な授業参観(ぐるぐるウィーク)、自主学習会の実施、全教員が指導細案を作成した授業の実施、市内外研究授業への参加 ⑤ICT(Chromebook)の活用法についての職員研修会の実施 指標：児童・学校アンケート	①④⑤2学期のぐるぐるウィークを中学校区へ公開し、他校教員と学ぶ取り組みとした。春日井市小学校へ先進校視察や市内研究発表会など、一人1回以上教員が多様な実践に学ぶとともに授業公開研修を実施。 ②自主学習プリントに加え、中高学年では自ら計画し取組を振り返る「自学」を指導し家庭学習の充実を図った。家庭学習時間の長短より、SNSの時間が多いことが課題。 ③朝読、読解力向上学習により心を整え思考のウォーミングアップをして学習に向かう環境が定着している。 ●互いの授業に学ぶには時間割変更が難しい ●新たな教育のためのアップデートが膨大 児童アンケート(肯定的回答) 「授業では自分の考えを持つことができていますか」90.4% 「授業では自分の考えを友だちに伝えることはできていますか」89.0% 学校アンケート(肯定的回答) 「学校は、確かな学力の育成を目指し、わかりやすい授業に努めていますか」 R6年度97.8%→R7年度98.5%	・授業改善において、より自分の考えをもち表現できる場を設けるとともに、学びに対して主体的な学習者の育成に努め、これまでの取組の成果を生かしつつ、さらに質の高い授業作りに向けて研修を深める。 ・自ら計画し振り返る「自学」を生活指導と関連付け組織的に指導し、質的な充実を目指すとともに、家庭学習量と質向上をめず。 ・心を落ち着けて学習に向かう朝の取組を継続し、望ましい学習環境を整える。	・全体で達成度評価の提示があれば、目で見て分かり易い評価基準になるかと思います。 ・すべての授業を無理にICT化する必要はないのでは。(逆にクリック一つで送信できる怖い部分もありますので、Wチェック必要) ・自主学習をする際に例えばドリルだけでなく、何を目標にすべきかを児童に教えていただくような、自主学習の取組み方も必要かと思います。 ・学習意欲、分かりやすい授業を行って下さっている。 ・ICTについては、各学年うまく活用されている様に思います。 ・在学中に比べると、低学年でも反応がはやく、扱いやすばやく、子供の方がはるかに活用できています。 ・ICT活用については、どんどん新しい学び方を試していってほしいです。 ・学力向上については、考える力や、説明、伝える、自分の考えを伝える力が大切なのはわかりますが、くり返し問題をといている時間はあるのかな?と少し心配な時があります。 ・読解力が本当にひくいと思います(自分の子供を見て)。 ・ユーチューブなど映像などそのまま見たものを受け取る形なので、読書など想像力、などを高めることがむずかしい。 ・朝読つけてほしいです。 ・今後の改善点で、自分の考えを持ち、主体的に学べる児童を育成するのは、かなり難しいと思うが、一人でも多くそうなることに期待したい。 ・朝読の定着しているのは良いこと。学習に向かう習慣は良いことだが、どれだけ読解力向上しているか、理解しているかの質も高めてほしい。 ・学校への出入りが10年近くになるが、益々先生方大変さ熱心さに頭が下がります。 ・音声や動画、他所で紹介された情報等を有効活用し、情報共有することで授業内容に広がり、業務の効率化が期待できます。日常的に使用することで情報収集、活用能力を自然に身につけられるといった効果が期待できます。しかし、依存度がマスト読解力、想像力等に影響を及ぼさないかといった懸念を抱きますが、本校では、朝読が行われているとのことで、読解力、文章構成力向上につながる対策も講じられているものと高く評価したいと考えます。 ・国の方針が、ICT推奨しているので、則せねばならないところもありますが、急速な情勢変化に伴い、教える側としてのノウハウや専門知識の習得に対する対応はなされているのか、それが負担増とはなっていないかといった点、家庭におけるSNS使用時間の問題等も懸念材料です。フェイク情報、詐欺、誹謗中傷等、人としてのモラルが問われる問題も横行しており、危険性を十分周知し、適切、適時な利用、使用を根気よく発信し続けることが必要であると考えます。 ・④ぐるぐるウィークを中学校区で実施できるのはとても良いことだと思います。 ・確実に身についているのかを調べることも必要	
長期欠席対策	①不登校・長期欠席傾向の児童を把握し、校内での情報共有を行い、支援体制を整える。 ②児童支援シートを活用し、支援や対応の具体と見通しを持った対応策を記録して途切れない細やかな支援を行う。 ③保護者と密に連絡を取り、必要に応じてスクールカウンセラーなど専門家や関係機関等と連携して困り感に寄り添った支援を行う。 指標：児童・学校アンケート	①③特別支援コーディネータが要支援児童と支援状況を日常的に把握し、必要に応じて保護者や関係機関と密に連携を図る組織体制が構築されてきた。 ②必要に応じた支援会議、担任による家庭訪問や電話連絡など柔軟かつ綿密な情報共有と取組により、登校状況に改善がみられる児童もいる。 ●こどもの特性や支援の必要性について保護者の理解や協力を得ることが難しいケースがある。 OR8.1.16現在不登校児童0名、長欠R6 7名→4名(うち2名2学期から改善傾向) 児童アンケート(肯定的回答) 「学校に行くのは楽しいですか」R6年度88%→R7年度91% 学校アンケート(肯定的回答) 「学校はお子さんにに対して親身になって対応し、一人ひとりを大切にした教育活動を行っていますか」R6年度96.4%→R7年度95.5% 「学校は、子ども同士のつながりを大切にし、いじめのない笑顔あふれる学校にするために努めていますか」R6年度94.3%→R7年度97%	・すべてのこどもの安全安心を肝に銘じ、困り感や支援ニーズの早期発見早期対応に努める。 ・こどもの特性に応じて支援の方向性と具体策を明確にし、こども・教師(学校)・保護者の3者がベクトルを合わせて共通理解のもと、粘り強い支援に努める。 ・特に見守りが必要な児童については、必要に応じて学校ボランティアの支援協力を求めていく。 ・児童支援にあたり、保護者も支援を要するケースについては、行政とも連携しているが、民生委員はじめ地域のとの連携体制を構築できると大変ありがたいが、どこまで情報を共有してよいのが難しく、踏み切れないのが現状である。	・綿密なソフト面での取り組みが確実に実績として表れております。有り難うございました。今後も引き続き大変ですが、保護者・関係機関との連携にの取組をお願いします。 ・数学的に不登校の生徒が減っていると聞き、先生方がとても努力されているかと思います。 ・個人的な事ですが、「いじめアンケート」に記入した小さなことでもしっかりと対応して頂きました。 ・先生方、学校側の現状理解しようと動いて下さった結果が不登校児減少につながったんだと思う。 ・正直、この問題については具体的にはどのような対応がされているのか、資料のとおりではわかりません。 ・こども・教師(学校)、保護者のベクトルが合い協力できる事が大切かと思いました。 ・又、先生が転動や学年変わりで、変ってもしっかりと引きついでほしいです。 ・先生がかかわると「まーたーから説明」ということは、さけてほしいです。 ・特別支援コーディネーターによる組織体制を構築され、こども、教師、保護者の3者による粘り強い支援に期待したい。 ・登校状況に改善がみられるのは良いこと。 ・すでに専門家、保護者、関係機関との連携体制が構築されているようで、加えて地域との連携体制について、民生委員、地元が立ち入れる範囲内が否か、どのように連携するのか漠然としており、具体的な内容が伺いたいところですよ。 ・各地区の民生委員は子どもたちや保護者には”近所のおじちゃん、おばちゃん””学習ボランティアの人””朝、見守りしてくれている人”など、顔見知りだと思うので、ちらっと様子を見に来て出会った(家の近くを通ってたまたま出会った)としても警戒しないと思います。不登校の原因が保護者にもある場合もあるので、苦しんでいる保護者を支援することで解決の意図口が見えるかもしれません。 ・先生方が常に児童と向き合ってくださっていることに感謝しています。学習についても申し上げることは何もありません。 ・一つ心配なことは、発話の少ない児童がいることで、センターふれあい教室でも会っているようで、入学のころから氣にかけています。	

令和7年度 学校自己評価書(様式)

鈴鹿市立国府小学校		NO. 2		
評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
非認知能力育成	①自己肯定感を高める教育活動の実施 ②家庭学習指導によるやりぬく力を高める取組 ③図書館教育と連携した、非認知能力を高めるためおすすめ本の充実、保護者への周知啓発 ④郷土愛、自尊感情を高めるための郷土学習 ⑤自己肯定感を高めるための研修会実施 指標：児童アンケート	①全クラスで承認活動実施 ②家庭読書週間の取組 ③読み聞かせ充実（ボランティア、委員会、異担任） ④ボランティア支援による多様な行事 ⑤三重大学中西教授招聘で研修会 ●取組を整理して体系化を図り、中長期的な見通しを明確にする必要がある。 児童アンケート（肯定的回答） 「自分にはよいところがあると思いますか」 R6年度84%→R7年度87% 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」 R6年度93%→R7年度93.9%	・非認知能力4つの視点「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」「社会性」について、今の取組を整理して、委員会や学級活動などと連動した育成を行う。 ・平田野中学校区として「自己肯定感」向上（否定的回答数を減らす）の取組を行うため、学校間で連携して、実践や検証等について協働していく。 ・児童理解や非認知能力育成のほか、人権教育にかかる研修をすべての職員が行い、最新の知見に学び、研鑽に努め教員としての力を高める。	・平田野中学校区としての連携した育成も良いと思いますが、教育の場内だけでは取り組みには不十分と限りがあるかと思えます。やはり保護者（家族）が中心となつての育成が重要かと思えます。 ・やりぬく、自己肯定感、自制心、社会性ができる子たちであると思えます。 ・できる限りの事を先生方はされているのかな～と授業を見ていて思えます。 ・印象的だったのが、先生が子供に「たすかりました!ありがとうございます」と伝え、子供たちがいつものその言葉でうれしそうにしている様子がありました。 ・決められた事、あたりまえの事で感謝を伝えられる姿勢がとても素敵でした。 ・一人ひとりの状況に寄り添って対応していただくことで、自己肯定感や安心感につながっていると感じました。 ・地域の大人、保護者がまずお手本になるように子供たちに見せていくことが大切。 ・非認知能力の4つの視点について、難しいと思いますが、家庭内でも取り組める環境改善が出来ると良いと思う。 ・郷土愛、自尊感情を高める強度学習が行われているとのこと、地元大使ではないが、地元の良いところ、自分のクラスの良いところなど、調べ発表する等、短所ではなく長所を見つけあい切磋琢磨することで自己肯定感、相手を思いやる心が養われるのではないかと感じます。自分には良いところがあるかという児童アンケートがありましたが、そう思わないという児童もいたという結果のようでした。自画自賛するより日々研鑽に努める姿こそが尊い事であるということを知りたいと思います。 ・③ビブリオバトルを試みるのもいいかも、と思えます。読書離れは中学校の学校運営協議会でもよく話題になります。自分のおすすめの本を紹介し、本に興味を持ってもらったり、発表することで自分を表現することもできます。「〇〇さんのこの発表がおもしろいと思ったから読んでみたい」と褒めてもらえたらうれしいと思います（中学校でもビブリオバトルをしています） ・1月に実施したワークショップに参加して、わずかな時間だったがコミュニケーションの大切さを実感した。子どもたちの意見をみとめて肯定し、今日はできなかったけど次の良い経験にきつとなるよ・・・など目を見て会話をすることで子供たちの目が輝き、顔さ、先生とは立場の異なった地域の人ならではのメリットがあると思う。 ・一人ひとりの子供がその意味を理解し高められていくといいですね。
地域連携	①地域コーディネーターと連携した学校支援ボランティア活動により子どもたちの健やかな育成を図る。 ②学校運営協議会におけるより一層の熟議と学校運営の改善に協働して取り組む。 ③学校だよりやホームページで学校の取組を発進し情報共有を図る。 ④地域の方に協力をいただきながら、子どもたちの校外活動を充実したものにす。 指標：児童・学校アンケート	①④様々なボランティアや地域の方々の大変手厚い支援により、児童も職員も充実した学校生活を送ることができている。また保護者の安心にもつながっている。 ②熟議により強力に学校運営を支えていただいている。 ③学校だよりをtetoru配信とし、紙媒体は回覧のみとした。（1月現在第12号発行） ●児童・職員・保護者にとって見守りや支援が当たり前になってはいけない ●支援継続のためボランティアの確保や募集の工夫が必要 児童アンケート（肯定的回答） 「地域の人に見守られていると思いますか」 R6年度94%→R7年度94% 学校アンケート（肯定的回答） 「学校は、地域や保護者に信頼され、ともに創り上げる学校に向けて努力をしていますか」 R6年度96%→R7年度98.5% 「学校は、tetoru・学校だより・HPなどを通して活動内容を分かりやすく伝えていますか」 R6年度94.7%→R7年度93.4%	・「地域とともに『生きる力』を育む学校」は、「国府っ子（こころ うつくしい つよい こども）」を育み地域へ貢献することをスクールミッションとして学校運営をする。 ・様々な地域の支えに対して学校としてどう応えるか、一人ひとりの職員が意識できるよう、定期的に取組（「国府っ子」育成のためにどのように取り組んでいるか）を交流していく。 ・学校だよりやホームページ等で、学校運営協議会の取組や地域連携にかかる情報の発信に努める。 ・学校運営委員会のさらなる熟議に向け、協働していく。	・昨今の子ども達の教育環境を観てみると、主体性の育成・自己肯定感・非認知能力を育む環境づくりなど様々な取り組みがされております。それらを取りまく地域への期待も大きく、まちづくり協議会や地域学校協議活動もその一端をさらに担えるよう一緒に進めていく。 ・地域の方、ボランティアの方、先生達に見守っていただいている。 ・ボランティアさん、地域の方々々に、感謝いっぱいです。 ・地域の方々がたくさんかかわってくれている学校だな、と思えます。 ・ボランティアの募集については、委員長が一手に引き受けて頂き、すばらしい事だと思います。委員長だからと来て頂いている方もたくさんいらっしゃる、ありがたい。 ・今後も、学校ボランティアさんの募集が必要。委員長引退後はどうなるのかと心配もあります。 ・沢山のボランティアの方々には携わっていただき、感謝しかない。感謝する心を育てる活動もしていただいているので、ありがたい。継続して欲しい。 ・学校だより、ホームページにて日々の様子、情報が確認できるのは家庭との関係が疎にならず良い事であると思います。連携して連絡も取りやすい状況にあれば、些細な変化にも敏感に対応ができ、迅速な初動対応につながるかと思います。 ・②毎回、学校運営協議会で子どもたちのことを中心に考えて熟議できていると思います。 ①スケジュールが合うすなかかなボランティアに参加することが難しいですが、参加してみると子どもたちがかわいくて、ちょっとでも力になりたいなと思えます。 ・各地区のバトロール隊ボランティアさんの後継者の確保も問題になってくると思います。また、日頃子どもたちの登校を見守ってくださっているバトロール隊の声（アンケート）を結果として実現できるよう、可能な限りお願いします。 ・本校は他校に比べ、算数や家庭科支援など、地域の方がボランティアとして日常的に学校に入出入りしている。子どもたちは、様々な立場の地域の人とふれあうことで、地域への愛着や思い出が増えると思う。 ・ボランティアの高齢化などで人数が減少していることも事実なので、今後ボランティアをどのように確保していくのが課題と思う。 ・まちづくり協議会と連携した取り組みの工夫によって改善されるのではないかとと思う。 ・ボランティアとして一人でも多くの方が学校に参加し、応援して下さるよう努力していきます。
学校における働き方改革	時間外労働時間削減に向けて ①会議の終了時刻を決める ②定時退校日の設定（月2回） ③授業アイデアのフォルダの活用 ④年休取得推奨日の設定	①1時間を目安に、あらかじめ定めた終了時刻を意識した会議運営が行われている。 ②行事の関係でどうしても2日設定することが難しい月もあるが、ワークライフバランスを考え実行する良い機会になっている。 ③授業アイデアのみでなく、授業で使用する様々な教材の共有につながっている。 ④長期休業中を中心に設定。 ●勤務時間は16：50までであるが、家庭連絡等は保護者の勤務終了後や帰宅後となる点については、勤務終了が遅くならないようにする方法がない。 ●授業日にも年休取得しやすい学校運営の工夫が必要であるがなかなか難しい。	・定時退校日を確実に月2日以上設定できる行事予定を組む。 ・業務の優先順位のつけ方やワークライフバランスにかかる研修を行い、職員自身が働き方考える機会をつくる。 ・指導案や教材などを共有し、0からでなく既にあるものをアレンジし改善することで効率と質的向上を図るよう、指導観の転換とそのための仕組みをつくる。 ・学校ボランティア増のため、職員や児童も募集について考える機会をつくる。	・音声認識アプリ等にて、会議や講演などの音声をリアルタイムで文字に変換し、記録や共有を容易にするツールで、今後の活用を検討されては如何でしょうか。議事録の作成時間を大幅に削減できるかと思えます。 ・どの先生も熱心で、時々、夜に学校前を通った時に職員室に明りがついている事もあるので「がんばってっしやるな……」と思いがちに見えています。 ・無理せずしずかに休みも取って下さい。 ・先生たちにもカウンセリングなどあるのでしょうか？ カウンセリングがあたり前になれば良いなと思います。 ・率先して校長先生が定時退校して他の先生方が勤務終了へ入りやすい空気を作ってほしい。もちろん業務が後まわりのないようなフォローなどはできるようなする。 ・定時退校日の月2日以上設定の取り組みにより、職員がメリハリのある働き方に改善できると思う。既存の指導案や教材などを用いて、効率良く質も上げていくのとよしと思う。 ・どの学校でも同じような問題を抱えているかと思われる。解決策についてノウハウ蓄積など他校との意見交換会等が行われていないのか、また家庭連絡についても緊急時以外についてはメール等でのやりとりが出来ないものか、専門家を交え解決策について協議の場が設けられれば良いかと思います。 ・家庭連絡等個別に連絡したいときの対応方法もtetoruのようなもので連絡できるものはないでしょうか。あくまで勤務時間内でやり取り可能な方法があればよいのですが。tetoruの有料個別連絡機能とか。 ・ワークライフバランスや働き方改革は理解できるが、子どもたちの成長を願う熱心な担任先生の負担は大きいと思う。現実と指標があっているのかかわからない。 ・素人考えですが、ボランティアはあくまでボランティアでしかないなので、副担任制（正規でなく非正規の先生）を導入するなど、思い切った見直しをするしか厳しいのではないですか。 ・先生方が健康でいてくださることが一番です。先生方を大切に守って下さいますようお願いします。